

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語・算数ともに平均点が高く、概ね良好な結果である。特に、思考力・判断力・表現力について高い数値を示している。また、本校の課題である学習意欲に関しても改善が見られた。質問紙調査では、全国や滋賀県の状況と比較して、自尊感情・規範意識・貢献意識が大変よい傾向を示している。家庭・地域と連携を図りながら進めている日常的な教育活動の成果が現れていると考えられる。

《強み・弱み：学習の領域別結果や児童質問紙結果より》

＜学習に関わること＞

本校の強みとしては、選択式問題よりも記述式問題の方が比較的正答率が高いことから、筋道立てて考え、表現する力が身につけていることが挙げられる。また、「話し合い活動を通して考えを深めたり広げたりできている」と感じている児童の割合が、全国や滋賀県の状況と比較して、大変高く、よい傾向を示している。本校で推進している学び合い学習の成果が現れていると考えられる。

一方、数年来の課題である学習意欲の向上については一定の改善が見られたが、「家庭における自主的な学習」については、依然低い傾向にあり、引き続き対策が必要である。

＜生活に関わること＞

自尊感情や規範意識においては、「自分には良いところがありますか」や「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という項目で、9割近くの児童が肯定的な回答をしており、よい傾向である。一方、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という項目で、強い肯定の回答が全国平均を下回っていたことから、児童のよいところを認め、長所を生かす活動をさらに工夫していきたい。

◇全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項◇

1. 学習意欲を高める授業づくり

「求めて学ぶ子」の育成を目指し、本校で数年来取り組んでいる「学び合い」学習をいっそう推進し、授業改善を進める。特に、タブレット端末を用いた新たな交流の型を模索していく。加えて、聴く力を育成し、わからないことを聴き合ったり、仲間の考えを取り入れたりしながら学びを深め、「思考力・判断力・表現力」の育成につなげていく。

2. 家庭学習の習慣化と、授業と家庭学習とをつなぐ取組の推進

「授業で学んだことを振り返る」「授業で疑問に思ったことを調べる」「授業で学んだことを保護者に伝える」等、タブレット端末を有効に活用し、授業と家庭学習をつなぐ取組を進め、児童がより意欲的に家庭学習に取り組めるようにする。

3. 「ふるさと晴嵐」地域学習の充実

双方向的な「ふるさと晴嵐」地域学習を充実させ、児童が地域への愛着や誇りを持つことができるようにするとともに、探究的な学習活動の活性化を図る。